



さあ、保険の新次元へ。

T&D 保険グループ

2024年3月期第2四半期(中間)決算のお知らせ

株式会社 T&Dホールディングス

2023年11月14日



写真は、「Try&Discoverフォトコンテスト2022 ～1枚から広がるしあわせを。～」の受賞作品(一部)です。

Copyright T&D Holdings, Inc. All Rights Reserved.

目次・グループストラクチャー

【決算のポイント】

P. 2

I. グループ概況

P. 3

II. 国内生命保険事業

P. 6

III. 事業ポートフォリオ多様化

P. 11

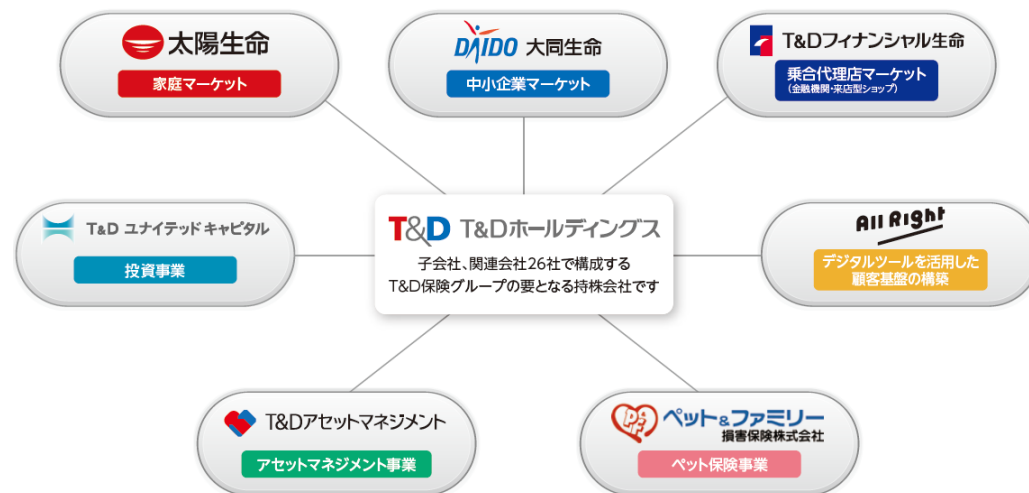
IV. 業績予想・株主還元

P. 13

V. 参考

P. 14

T&D 保険グループ



おかげさまで、T&Dホールディングスは
2024年4月に設立20周年を迎えます。

<本資料における用語の定義>

【連結】 T & Dホールディングス連結
 【太陽】 太陽生命保険
 【TDF】 T & Dフィナンシャル生命保険
 【TDAM】 T & Dアセットマネジメント

【3社合算】 生命保険会社3社（太陽生命・大同生命・T & Dフィナンシャル生命）の単純合算
 【大同】 大同生命保険
 【TDUC】 T & Dユナイテッドキャピタル
 【P & F】 ペット&ファミリー損害保険

【決算のポイント】

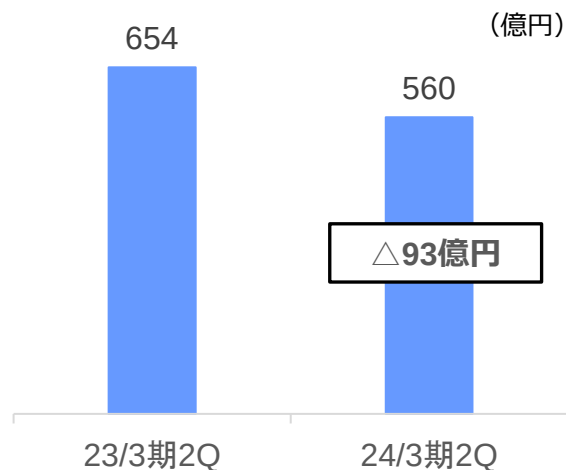
- ・グループ修正利益は、為替ヘッジコストの増加等により前年同期から減少したものの、国内生命保険の契約業績は、主力商品の販売好調により堅調に推移。
- ・株主還元として1株当たり35円の間配当を実施。年間配当は、9期連続の増配となる1株あたり70円を予定。

	項目	23/3期2Q	24/3期2Q	前年同期差	前年同期比	主な増減要因
グループ連結	グループ修正利益	654億円	560 億円	△93億円	△14.2%	為替ヘッジコストの増加等。
	親会社株主に帰属する中間純利益（△は純損失）	△1,483億円	430 億円	+1,913億円	—	前年同期に海外再保険関連会社で米国金利上昇に伴う多額の一時的な評価性損失等が発生した反動等。
国内生命保険事業	新契約年換算保険料	781億円	945 億円	+163億円	+20.9%	一時払商品の販売増加や、対面・非対面を融合したハイブリッド営業およびお客さまニーズに丁寧に対応したコンサルティング営業の推進等による主力商品の販売好調。
	保有契約年換算保険料 (23/3末)	15,650億円	15,981 億円 (23/9末)	+331億円 (前年度末差)	+2.1% (前年度末比)	
	保険料等収入	11,138億円	11,163 億円	+25億円	+0.2%	
	基礎利益	657億円	567 億円	△89億円	△13.7%	為替ヘッジコストの増加等。
クロースドブック事業	修正利益（連結）	149億円	149 億円	+0億円	+0.0%	（前年同期並み）
株主還元	中間配当実績	35.0円(1株あたり)		年間配当 【9期連続増配】	70.0円(1株あたり)	

1. 収益関係

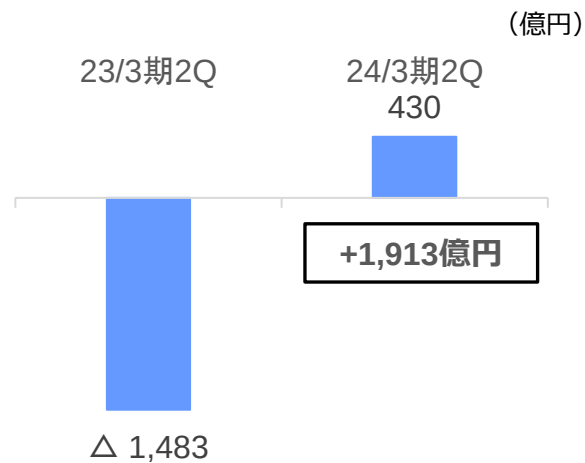
グループ修正利益

為替ヘッジコストの増加等により、**前年同期から△93億円となる560億円。**
(前年同期比△14.2%)



親会社株主に帰属する中間純利益

前年同期に海外再保険関連会社（フォーティテュード社）で米国金利上昇に伴う多額の一時的な評価性損失等が発生した反動により、**+1,913億円増加となる430億円。**



【参考】グループ修正利益とは

- ・当グループでは、A L M (Asset Liability Management)を実施し、金利リスクを含めた各リスクをコントロールして資産と負債を総合的に管理しています。
 - ・一方、保有資産と保険負債の評価方法の違いから会計上の一時的な評価性損益が計上されるケースがあるため、この評価性損益等を調整※した「グループ修正利益」を、経営実態を表す指標としてK P Iに設定し、また、株主還元もグループ修正利益に基づいて行っています。
- ※調整の対象は、フォーティテュード社に係る一時的な評価性損益や市場価格調整(MVA)に関連する評価性の損益等。

2. MCEV・新契約価値

- ・生命保険会社の企業価値を評価する指標のひとつであるGroup MCEVは、新契約価値の積み上げおよび内外株価上昇・国内金利上昇等により**前年度末から+3,378億円となる36,691億円**。
- ・今期に販売した保険契約（転換契約を含む）から将来生ずる利益を現在価値に換算した新契約価値は、2022年度末に実施した終局金利の変更等により3社合算で**前年同期から△119億円となる883億円**。

■ MCEV

(億円)

	23/9末	前年度末差	前年度末比
T&D保険グループ全体 (Group MCEV)	36,691	+3,378	+10.1%
生命保険事業のMCEV	37,657	+3,253	+9.5%
うち太陽生命	11,279	+436	+4.0%
うち大同生命	24,312	+2,087	+9.4%
うちTDF	1,446	+179	+14.2%
生命保険以外の事業に係る純資産	△965	+124	-

■ 新契約価値

(億円)

	24/3期2Q	前年同期差	前年同期比
3社合算	883	△119	△11.9%
太陽生命	191	△127	△40.0%
大同生命	650	+1	+0.3%
TDF	41	+6	+17.8%

※生命保険会社の企業価値を評価する指標の一つ「EV（エンベディッド・バリュー）」は、「貸借対照表の純資産に、価格変動準備金・危険準備金等の内部留保、時価評価されていない資産の含み損益等を加えた純資産価値」と「現時点で保有している契約から将来見込まれる利益の現在価値」を合計したもの。

※「生命保険以外の事業に係る純資産」には、フォーティテュード社に係る会計上の一時的な評価性損益等を含む。

3. 健全性指標等

- ・グループ連結のソルベンシー・マージン比率は、内外金利上昇等により前年度末から△41.6ptとなる878.5%。監督当局による早期是正措置の基準となる200%を上回っており、十分な健全性を維持。
- ・当グループの内部モデルに基づき算出したグループ連結のESRは、前年度末から+21ptとなる251%。

■ ソルベンシー・マージン比率（SMR）

	23/3末	23/9末	前年度末差
連結	920.1%	878.5%	△41.6pt
太陽生命	580.9%	531.6%	△49.3pt
大同生命	1,116.1%	1,129.9%	+13.8pt
TDF	659.4%	560.9%	△98.5pt

■ ESR※

	23/3末	23/9末	前年度末差
連結	230%	251%	+21pt

※ ESRは、経済価値ベースの健全性指標として当グループが導入している指標で、当グループの内部モデルに基づき算出しています。

4. 契約業績

- ・一時払商品の販売増加や、対面・非対面を融合したハイブリッド営業およびお客さまニーズに丁寧に対応したコンサルティング営業の推進等による主力商品の販売好調により、新契約年換算保険料は、3社合算で前年同期から+163億円となる945億円、保有契約年換算保険料は、3社合算で前年度末から+331億円となる15,981億円。

■ 新契約年換算保険料※1

(億円)

	24/3期2Q	前年同期差	前年同期比
3社合算	945	+163	+20.9%
うち第三分野	213	+4	+2.1%
太陽生命	155	△32	△17.2%
うち第三分野	99	△16	△14.0%
大同生命	364	+23	+6.8%
うち第三分野	94	+3	+3.8%
TDF	424	+172	+68.1%
うち第三分野	19	+17	+965.5%

■ 保有契約年換算保険料※1

(億円)

	23/9末	前年度末差	前年度末比
3社合算	15,981	+331	+2.1%
うち第三分野	2,925	+54	+1.9%
太陽生命	5,684	△43	△0.8%
うち第三分野	1,356	+20	+1.5%
大同生命	8,042	+21	+0.3%
うち第三分野	1,515	+15	+1.1%
TDF	2,255	+353	+18.6%
うち第三分野	53	+18	+51.9%

【参考】各社の契約業績指標※1（各社の経営目標にあわせて設定している経営指標）

(億円)

	太陽			大同			TDF		
	保障年換算保険料※2			新契約高※3			年換算保険料		
新契約業績	24/3期2Q	前年同期差	前年同期比	24/3期2Q	前年同期差	前年同期比	24/3期2Q	前年同期差	前年同期比
	105	△15	△12.7%	23,655	+1,768	+8.1%	424	+172	+68.1%
保有契約業績	23/9末	前年度末差	前年度末比	23/9末	前年度末差	前年度末比	23/9末	前年度末差	前年度末比
	1,620	+6	+0.4%	466,596	△242	△0.1%	2,255	+353	+18.6%

※1 契約業績指標は、個人保険・個人年金保険の合計。また、新契約業績には、転換による純増加を含む。

※2 太陽生命の経営指標で、年換算保険料のうち主に貯蓄系商品を除いた保障部分の合計。

※3 大同生命の経営指標で、個人保険・個人年金保険の契約高にJタイプ、Tタイプ、介護リーフa、一時金型Mタイプ等の第三分野の保障金額を加算した指標。

5. 保険料等収入・基礎利益

- ・ 保険料等収入は、3社合算で概ね前年同期並みの**11,163億円**。
- ・ 基礎利益は、新型コロナウイルス関連の支払が減少した一方、為替ヘッジコストの増加等により、3社合算で、**前年同期から△89億円となる567億円**。

■ 保険料等収入

(億円)

	24/3期2Q	前年同期差	前年同期比
3社合算	11,163	+25	+0.2%
太陽生命	2,920	△309	△9.6%
大同生命	4,138	+179	+4.5%
TDF	4,104	+155	+3.9%

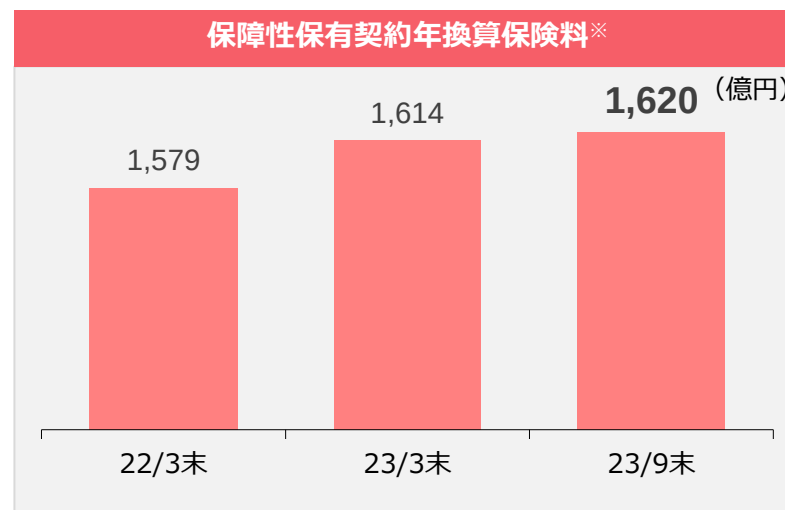
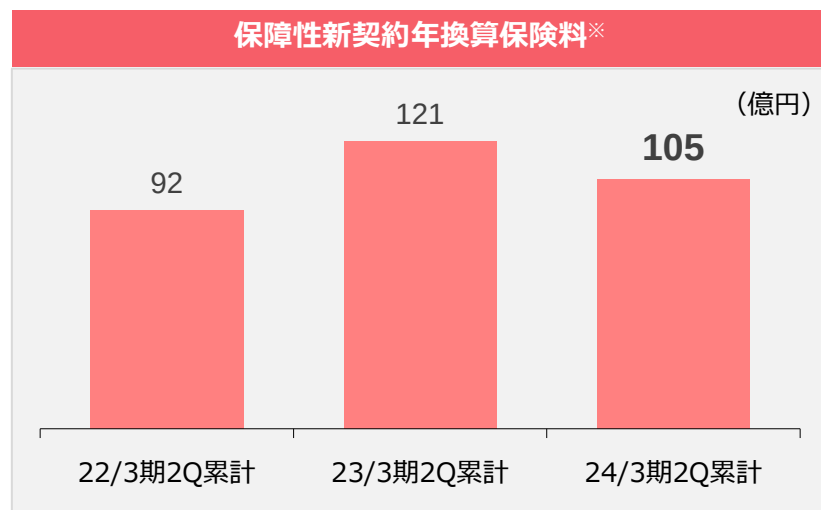
■ 基礎利益

(億円)

	24/3期2Q	前年同期差	前年同期比
3社合算	567	△89	△13.7%
太陽生命	194	+30	+18.5%
大同生命	375	△70	△15.8%
TDF	△2	△49	—

【参考】太陽生命

- 保障性新契約年換算保険料※は、前年の新型コロナウイルス感染症拡大による医療ニーズの高まりの反動により減少。保障性保有契約年換算保険料※は上場以来最高だった前年度末から増加。



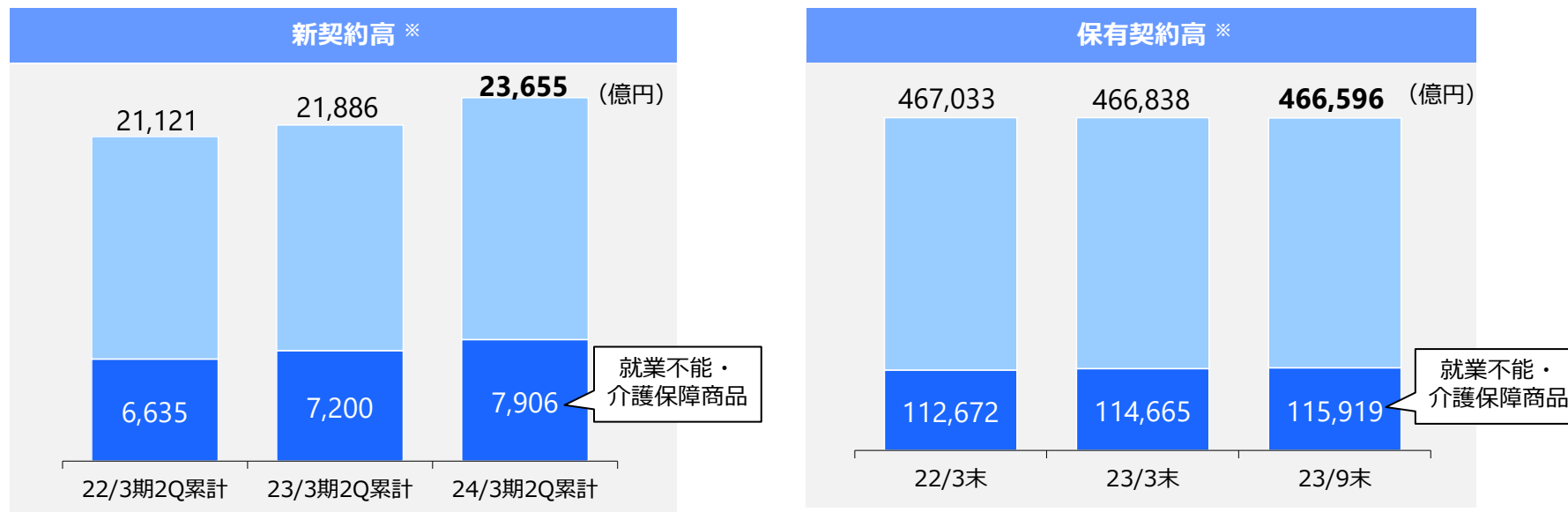
- 保障性新契約年換算保険料※は、インフォーマーシャルやインターネット広告等を経由した情報を活用した、対面・非対面を融合させた「ハイブリッド型営業」の推進、営業職員数の増加、お客さまニーズの高い新商品の発売等にとともに、新型コロナウイルス感染症の影響が軽微であった2021年度から増加。
- 保障性保有契約年換算保険料※についても、新契約業績が好調だったことを受けて、上場以来最高だった前年度末から増加。

※ 保障性年換算保険料とは、年換算保険料のうち主に貯蓄系商品を除いた保障部分の合計。
同指標はE Vの伸展に大きく寄与するため、太陽生命が契約業績の中で重視している独自指標。

・ 2023年5月に「告知緩和型がん診断保険」、「告知緩和型がん治療保険」を発売するなど、お客さまニーズの高い商品提供を行うとともに「ハイブリッド型営業」の定着とさらなる推進、リモート募集等の販売手法の多様化を図ることでマーケットを拡大。

【参考】 大同生命

■ 新契約高は第1四半期から引き続き堅調に推移し、前年同期から増加。保有契約高は前年度末並みの水準を確保。



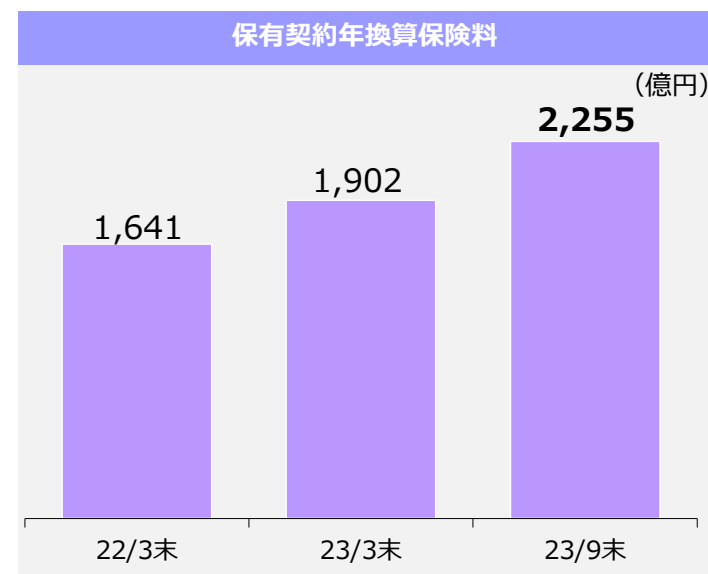
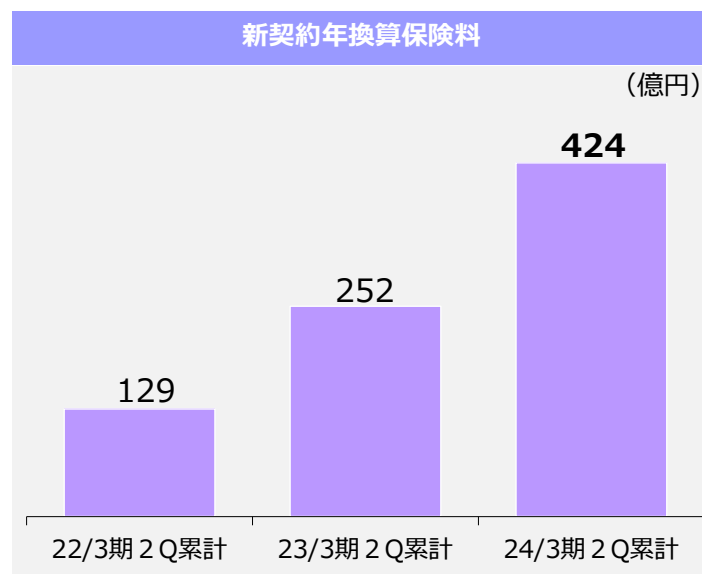
- 「新契約高」は、死亡保障・就業不能保障・介護保障など、お客さまの幅広い保障ニーズにお応えする丁寧なコンサルティング営業を実践したことなどにより堅調に推移。「就業不能・介護保障商品」の新契約高も前年同期から増加。
- 「保有契約高」は、お客さまである中小企業の資金需要が増加していることにもない、「解約失効高」が増加したものの、「新契約高」が堅調に推移したことにより、前年度末並みの水準を確保。

- ・ 法人向け医療保険「一時金型Mタイプ（会社を守るスマートM）」（2023年6月）を発売。
- ・ また、中小企業経営者向けWebコミュニティ「どうだい？」（登録者数：4.6万名）や中小企業の健康経営の総合支援ツールである「KENCO SUPPORT PROGRAM」（利用社数：3.7万社）など中小企業のお客さまの課題解決に役立つ様々なソリューションを提供。

※当ページ記載の「新契約高」「保有契約高」には、「Jタイプ」の重大疾病保険金額、「Tタイプ」の就業障がい保険金額、「介護リリフα」等の介護保険金額および「一時金型Mタイプ」の入院一時金額を基準として計上した金額を含む。

【参考】T&Dフィナンシャル生命

- 新契約年換算保険料は、円建の一時払商品の販売好調等により、前年同期から約1.6倍。
保有契約年換算保険料は、前年度末から増加。



- 2023年4月にリニューアルした一時払個人年金保険「ファイブテン・ワールド3」の販売が堅調に推移したこともあり、新契約年換算保険料は424億円、前年同期から68.1%増加。
- 保有契約年換算保険料は2,255億円、前年度末から18.6%増加。

・ 商品ラインナップのうち、円建カテゴリーの充実を図るため、2023年4月より「ファイブテン・ワールド2」をリニューアルし、「円貨プラン」を追加した「ファイブテン・ワールド3」を販売開始。「円貨プラン」は円で着実にふやしつつ、公的介護保険制度の「要支援1」から介護・認知症に備えることができる商品。「生涯プレミアムシリーズ」、「ハイブリッドシリーズ」に加え、同商品の提供により、幅広いお客さまニーズに対応。

6. クローズドブック事業（TDUC連結）

- ・修正利益は、概ね前年同期並みとなる**149億円**。
- ・中間純利益は、前年同期にフォーティテュード社※において、米国金利上昇に伴う多額の一時的な評価性損失等が発生した反動により、**前年同期から+1,966億円となる△11億円**。

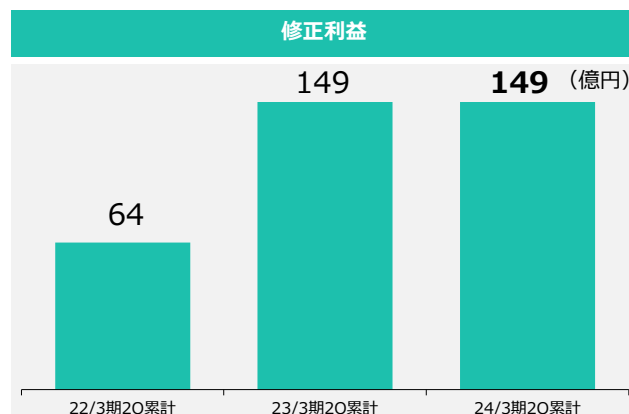
※TDUCの投資先である海外再保険関連会社

(億円)

	23/3期2Q	24/3期2Q	前年同期差
経常収益	1	3	1
経常費用	2,009	13	△1,996
うち持分法による投資損失	1,999	2	△1,996
経常利益（△は損失）	△2,007	△9	+1,997
中間純利益（△は純損失）	△1,978	△11	+1,966
修正利益	149	149	0

【ご参考(中間純利益の前年同期差)】

- ・前年同期にフォーティテュード社において、米国金利上昇に伴い多額の一時的な評価性損失等を計上※した反動等により、当期の中間純利益は大幅に増加した。
※米国会計基準上、保有資産（主に債券）は時価評価される一方、保険負債の評価に金利変動は反映されない。
前年同期は、金利上昇に伴う保有資産の評価損発生により多額の中間純損失が発生。
- ・なお、当グループでは、この評価性損益等を調整した「グループ修正利益」を、経営実態を表す指標としてK P Iに設定し、また、株主還元もグループ修正利益に基づいて行っている。



7. その他の事業ポートフォリオ

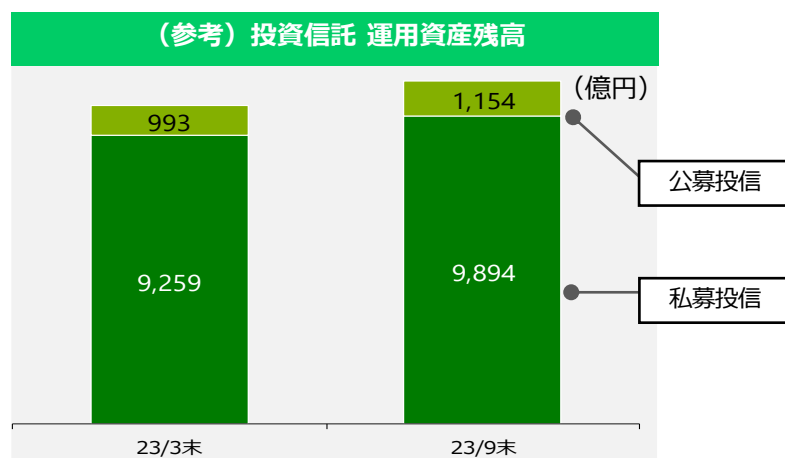
アセットマネジメント事業（TDAM）

投信事業を中心とした資金流入および資産運用好調により運用資産残高が増加し、営業収益・経常利益・中間純利益は、前年同期から増加。

（百万円）

	23/3期2Q	24/3期2Q	前年同期差
営業収益（実質ベース）※	1,346	1,430	+83
経常利益（△は損失）	△ 54	3	+58
中間純利益（△は純損失）	△ 58	6	+65

※販売会社や運用委託先への支払いを控除した実質的な営業収入

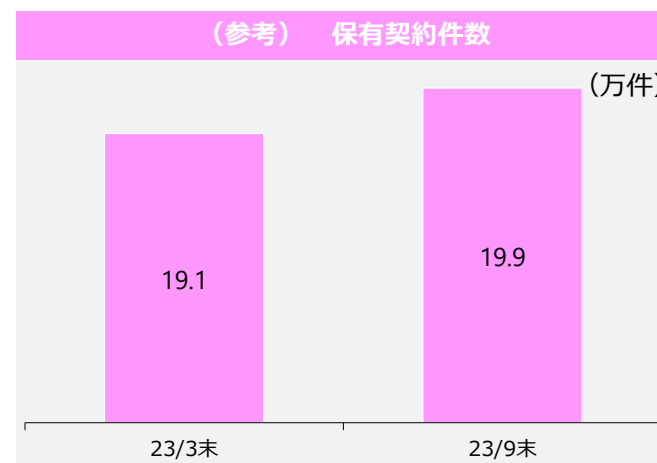


損害保険【ペット保険】事業（P&F）

新契約件数が好調に伸展したことにより保有契約件数が増加し、経常収益は順調に拡大。中間純利益も前年同期から増加。

（百万円）

	23/3期2Q	24/3期2Q	前年同期差
経常収益	4,864	5,474	+609
経常利益	307	862	+555
中間純利益	220	630	+410



8. 業績予想・株主還元

■ 24年3月期 通期業績予想

(億円)

	24/3期通期予想	23/3期実績
保険料等収入(3社合算)	20,600	21,683
太陽生命	6,700	6,433
大同生命	8,300	8,103
TDF	5,600	7,146
経常利益(連結)(△は損失)	1,460	△741
太陽生命	600	481
大同生命	890	840
TDF	10	110
当期純利益(連結)(△は純損失)	870	△1,321
太陽生命	380	268
大同生命	520	493
TDF	0	79
グループ修正利益	1,000	902

■ 株主還元

	24/3期予想・実績	23/3期実績
1株当たり年間配当金※	(予想) 70.0円	62.0円
中間配当	(実績) 35.0円	31.0円

※ 9期連続の増配

※ 通期業績予想および1株当たり年間配当金予想は2023年5月15日公表内容から修正はありません。

※ 当ページに記載の各予想値は今後様々な要因によって実際の数値と大きく異なることがあります。

【参考】 損益関係①

■ グループ連結

	23/3期2Q	24/3期2Q	前年同期差	前年同期比
経常収益	14,968	15,000	+32	+0.2%
うち保険料等収入	11,186	11,214	+28	+0.3%
うち資産運用収益	3,362	3,408	+45	+1.4%
うちその他経常収益	419	377	△42	△10.0%
経常費用	16,117	14,292	△1,824	△11.3%
うち保険金等支払金	10,924	10,108	△816	△7.5%
うち責任準備金等繰入額	646	988	+342	+52.9%
うち資産運用費用	918	1,563	+645	+70.3%
経常利益（△は損失）	△1,149	707	+1,857	-
特別損益	△36	6	+43	-
契約者配当準備金繰入額	114	113	△0	△0.6%
税金等調整前中間純利益 （△は純損失）	△1,300	600	+1,901	-
法人税等合計	179	169	△10	△5.8%
親会社株主に帰属する 中間純利益（△は純損失）	△1,483	430	+1,913	-
グループ修正利益	654	560	△93	△14.2%

(億円)

①
②
③

■ 含み損益（生保一般勘定）

	3 社合算		太陽生命	
	23/9末	前年度末差	23/9末	前年度末差
有価証券の差損益	△482	△2,661	1,002	△614
うち公社債	△3,896	△3,749	△848	△1,327
うち株式	3,535	+1,034	2,067	+761
うち外国証券	108	+311	△405	△64
うち金銭の信託	△1,153	△607	-	-
土地等の差損益	1,539	△0	664	△2
	大同生命		TDF	
	23/9末	前年度末差	23/9末	前年度末差
有価証券の差損益	△453	△1,292	△1,032	△754
うち公社債	△3,195	△2,280	147	△141
うち株式	1,468	+273	-	-
うち外国証券	519	+379	△5	△2
うち金銭の信託	-	-	△1,153	△607
土地等の差損益	875	+2	-	-

(億円)

※ 有価証券の差損益は、有価証券のうち市場価格のない株式等および組合出資金等は除く。

※ 土地等の差損益は、原則として鑑定評価額（重要性の低い物件等については公示価格等）をもとに算出。

<主な増減要因>

- ① 新型コロナウイルス感染症関連の支払減少
- ② TDFの一時払商品の保有増加等
- ③ 為替ヘッジコストの増加等

【参考】 損益関係②

■ 国内生命保険事業

(億円)

	太陽生命			大同生命			T&Dフィナンシャル生命		
	24/3期2Q	前年同期差	前年同期比	24/3期2Q	前年同期差	前年同期比	24/3期2Q	前年同期差	前年同期比
経常収益	4,606	△567	△11.0%	5,924	+674	+12.8%	4,832	△7	△0.2%
うち保険料等収入	2,920	△309	△9.6%	4,138	+179	+4.5%	4,104	+155	+3.9%
うち資産運用収益	1,094	△272	△19.9%	1,627	+493	+43.5%	705	△162	△18.7%
うちその他経常収益	590	+14	+2.5%	158	+2	+1.3%	22	△0	△3.8%
経常費用	4,364	△544	△11.1%	5,499	+715	+15.0%	4,769	+51	+1.1%
うち保険金等支払金	3,278	△555	△14.5%	2,816	+115	+4.3%	3,984	△378	△8.7%
うち責任準備金等繰入額	0	△82	△100.0%	896	△25	△2.8%	628	+512	+442.1%
うち資産運用費用	514	+89	+21.0%	1,049	+610	+138.9%	2	△55	△96.1%
経常利益	241	△23	△8.7%	424	△41	△8.8%	62	△58	△48.4%
特別損益	27	+33	-	△17	+8	-	△3	0	-
契約者配当準備金繰入額	60	+2	+4.4%	53	△3	△5.8%	0	0	+36.1%
税引前中間純利益	208	+7	+4.0%	354	△28	△7.6%	59	△58	△49.5%
法人税等合計	50	△4	△8.9%	100	△14	△12.6%	18	△17	△49.7%
中間純利益	157	+12	+8.9%	254	△14	△5.4%	41	△40	△49.4%
基礎利益(△は損失)	194	+30	+18.5%	375	△70	△15.8%	△2	△49	-
修正利益※	157	+12	+8.9%	254	△14	△5.4%	11	△80	△87.9%
順ざや	125	△236	△65.4%	70	△107	△60.2%	△7	+2	-

※ T&Dフィナンシャル生命の数値は、当期純利益から市場価格調整（MVA）に関連する評価性の損益を調整して算出。

さあ、保険の新次元へ。

T&D 保険グループ

 T&Dホールディングス

 太陽生命

 大同生命

 T&Dフィナンシャル生命

 T&Dアセットマネジメント

 ペット&ファミリー
損害保険株式会社

 T&D ユナイテッド キャピタル

 All Right

【お問合せ先】

株式会社 T & D ホールディングス	広報課	TEL 03-3272-6115
太陽生命保険株式会社	広報課	TEL 03-3272-6406
大同生命保険株式会社	広報課	TEL 03-3272-6206
T & D フィナンシャル生命保険株式会社	広報課	TEL 03-6745-6808